

Ⅱ 委託研究課題概要

＜研究概要様式＞

【2024年度採択 連携研究スキームによる研究】

課題番号（e-Rad課題ID）：24036924

研究テーマ：アフリカにおける食料安全保障に関する研究—グローバル・サウスとの関わりにも着目して—

委託研究課題名：「北・東・西アフリカにおける食料安全保障構造の変化に関する研究」

1 研究実施期間（西暦）：2024年度～2026年度（3年間）

2 予算規模：8,710,000円（2024年度）

3 代表機関・役職・研究開発責任者
京都大学・研究員（名誉教授） 末原 達郎

4 研究の目的・達成目標
アフリカの食料安全保障は、構造的に変容している。また安全保障構造のスケールが、国家、コミュニティ、家族等へと重層化している。食料貿易も対ヨーロッパだけでなく、グローバル・サウスにも拡大している。食料安全保障の変動とその構造変化を明らかにし、地域ごとの比較も行う。

5 研究の内容および実施体制

- ① アフリカにおける食料安全保障構造の変化に関する研究
スケールの多層化に伴い食料安全保障概念も変化した。新しい分析スケールを持った食料安全保障構造を示し、現実のアフリカ諸国で比較研究を行う。
（京都大学）
- ② 西アフリカ（東部）における食料安全保障の変化の分析
西アフリカ（東部）における食料安全保障の変化について食料生産と食料貿易の視点から分析を行う。特にグローバル・サウスとの関係を視野に入れて分析する。
（龍谷大学）

6 政策研究との連携の意義、期待される波及効果

政策研究は、西アフリカ（西部）と南アフリカを対象地域としており、北アフリカ・東アフリカ・西アフリカ（東部）を対象とする本研究と連携しアフリカ全体の変化を分析できる。グローバル・サウスの専門家とアフリカ研究の専門家とが連携することが可能となる。

【連絡先：京都大学学術情報メディアセンター 075-753-7400】（代表機関の連絡先）

<研究概要図>

委託研究課題名

北・東・西アフリカにおける食料安全保障構造の変化に関する研究

委託研究課題名：北・東・西アフリカにおける食料安全保障構造の変化に関する研究

研究の背景：世界の食料安全保障の概念は、国を単位とした食料安全保障から地方、民族、コミュニティ、家族を単位とする多重化した食料安全保障へと変化してきている。しかしわが国の食料安全保障の研究では、国を単位とする経済学的分析が中心であり、文化人類学、農村社会学を基盤とした食料安全保障構造を分析する必要に迫られている。

研究目的・達成目標：本研究では、①アフリカにおける食料安全保障の単位を構造化し、その変動を明らかにする。②アフリカの対ヨーロッパから対グローバル・サウスへと食料貿易の構造が変わっていることを明らかにする。

研究内容・実施体制

共同研究グループ（コンソーシアム）：代表連携機関 京都大学

○研究内容：アフリカの食糧貿易、農業生産実態を分析した後、国以下の多重化したレベルにおける食料安全保障構造を明らかにする。さらに、対ヨーロッパだけではなく、グローバル・サウスとの貿易の変化を明らかにする

① アフリカにおける食料安全保障
構造の概念の明確化
(代表連携機関：京都大学)

③食料安全保障構造の変化の比較分析
④農家レベルにおける経済調査
(代表連携機関：京都大学)

②西アフリカ（東部）における食料安全保障構造の現状把握のための調査分析
(共同研究機関：龍谷大学)
東・北アフリカにおける食料安全保障構造の現状把握のための調査分析
(代表連携機関：京都大学)

⑤資料収集や実態調査で収集された資料の比較分析と提案 (代表連携機関：京都大学)

○政策研：西アフリカ（西部）、南アフリカにおける食料安全保障に関する研究

食料安全保障の単位を多層化した構造として捉え直し、アフリカの人々の生活に必要な食料安全保障構造を明らかにし、TICADにも反映できるように課題を整理し、政策の構築に寄与する

政策研究との連携の意義・期待される効果：政策研の研究では、北・東アフリカの食料安全保障の研究が含まれていないので、この部分を補完する。アフリカ研究とグローバル・サウスの研究とを合体させ、文化人類学・農村社会学の研究の蓄積を開発経済学の研究に追加し、補完することができる。